

テーマ【学生・教職員 双方のための学修支援のあり方】

1. 学生カルテや学生ポートフォリオが注目を浴び導入を考えている大学がたくさんあるにも関わらず、定義が曖昧でどのようなシステムなのかははっきりしないのが現状である。第 5 グループにおいても導入予定または導入検討中である大学が多数を占めるが同様に定義が曖昧であることから、それぞれのシステムの定義付けを行い共通の認識を持って討議を行った。

定義

【学生カルテ】

- ・学生生活で問題のある学生の早期発見・サポートをすることで重症化を防ぐことを目的とし、学生の基本データやカウンセリング内容を記録し共有するためのシステム。
- ・教職員が主体的に情報入力し、中心的に利用するシステム。
- ・何らかの問題や課題を抱えた学生への対応を前提とし、自立に向かわせる支援となるシステム。

【学生ポートフォリオ】

- ・学生が自分自身の情報（実習記録、論文、ボランティア活動記録、学修記録など）を蓄積し、第 3 者に公開することでアドバイスを求めたり、自分の学修過程の振り返り材料としたりできるシステム。
- ・学生が中心的に利用し、多少の自由度があるシステム。（ブログ形式など）
- ・学生が自立し、社会に自分をアピールすることをサポートするシステム。

2. 定義により学生カルテは本来ならば使わずに済むことが望ましい学生救済型システム（ネガティブシステム）、学生ポートフォリオは利用すればするほど学生に自立を促せる自立支援型システム（ポジティブシステム）とそれぞれの位置づけを明らかにしたところで、導入した際にどのようなメリット・デメリットが発生するのかを検討した。

メリット

【学生カルテ】

- ・リタイアしそうな学生を未然に発見しサポートすることができる、そのため学生の父母にとっても安心感を持つことができる。
- ・教職員間で情報共有することにより連携をとって学生対応・学生支援をサポートできる。

【学生ポートフォリオ】

- ・学生が社会人になった時に大学生活で得た知識・能力・経験などを示すことができる。
- ・蓄積した情報を振り返ることでキャリアビジョン（就職に限らない）を描くことができる。

デメリット

【学生カルテ】

- ・教職員の業務負担増加、アクセス権限管理の複雑さによる情報管理の負担。
- ・他者のコメントにより先入観を持つてしまうことへの危惧。
- ・システムを利用しながらの面談によるコミュニケーション阻害。

【学生ポートフォリオ】

- ・学生に利用目的を理解してもらい、利用を定着させるための動機付けが難しい。
- ・利用し続けるためのモチベーションの維持が難しい。
- ・学生カルテとの利用目的のすみ分けをしっかりと明確にしないと二重投資になる恐れがある。

3. それぞれのシステムにおけるメリットを活かし、デメリットを極力抑えるにはどのようなシステムであるべきなのか理想像を描いた。

理想像

【学生カルテ】

- ・学生の基本情報は基幹システムと連携し、漏れのない最新情報を教職員間で共有できる。
- ・面接の記録は事実の記載に留め、主観や先入観をできるだけ取り除く。
- ・面接担当者が当該学生のカルテを本人と一緒に見ながら話ができる内容とする。
- ・維持負担の少ないシステムとする。
- ・必要な人が必要な情報だけにアクセスできるシステム。

【学生ポートフォリオ】

- ・利用範囲に幅があり過ぎると学生はどう使えばよいのか判らないので、ある程度使い道を限定する。
- ・学生が蓄積する情報の形式に汎用性があること。
- ・蓄積する情報の信憑性や正誤は問わない。
- ・Can-do List の管理ができる。
- ・学生自身が求める支援や関係が作れるコミュニケーションツールを有する。
- ・学生が楽しんで使える遊び心のあるシステムである。
- ・卒業後もシステムを継続利用できる。

4. それぞれのシステムを期待通りに活用できた場合にはどのような学修支援への効果が期待できるのかを考えた。

学修支援への効果

【学生カルテ】

- ・問題を抱える学生を早期に発見しサポートすることで学生生活を全うし卒業へ導く前提条件を満たすための支援が行える。
- ・学生カルテの分析により学生の全体的な傾向を掴んだり、大学の問題を洗い出すことができ、FD・SDへの活用ができる。

【学生ポートフォリオ】

- ・学生自身がPDCAを意識することで、社会で必要となるスキルを身につけることができる。
- ・大学生活で何を学び・どのような経験を積んできたのかをアピールすることができる。

5. 最後に各大学で導入を予定または検討中であるが、実際にどのような問題があるのかを考えた。

現実課題

- ・新たなシステムを導入することによる負荷が高い（作業量、コスト）。
- ・使用目的を明確にし、利用者または支援する関係者への周知徹底が必要であり、継続して利用するための動機付けが難しい。
- ・セキュリティポリシーの確立をしなければならない。

6. まとめ

学生カルテや学生ポートフォリオは導入や運用に多大な労力を要するが、活用することで学生への学修支援における効果は大いにある。しかし、それぞれのシステムの役割や利用目的が曖昧では二重投資や使えないシステムと成り果ててしまうので、導入前には十分な検討が必要である。

第5グループでは最初に学生カルテや学生ポートフォリオの定義を考えることにより、共通の理解を獲得した上で討議することができた。各大学でも定義について討議することでどのようなシステムにしたいのか、どのように運用していくのかが見えてくるのではないのでしょうか。